

教育学部 学部基幹科目（2022年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	科目概要
			学校や病院等、教育支援、臨床心理学的援助が要請される領域の諸問題に積極的に取り組み、問題解決する実行力を身につけている	教育学あるいは臨床心理学に関わる研究の基礎的方法論を修得するとともに、大学院進学希望にも対応できる十分な資質・能力を身につけている	教育学や臨床心理学に関わる基礎的な知識・技能および応用力を有し、さらに、それらの領域で情報通信技術を活用できる技能を身につけている	人間を理解する心を涵養し、社会的な常識を有し、社会の幅広い年齢層の人たちと協働できる人間関係能力を身につけている	
学部基幹	教育原論	1			◎	○	<p>教育という営みは歴史や社会の変遷のなかで生成され、今も未来に向かって変化し続けています。バックミラーを見なくては自動車を安全に運転できないのと同じように、未来に向かって教育を考えるには過去を振り返ることが有益です。この授業では、歴史のなかで現れてきた教育に関するさまざまな思想をとおして現代の教育を構成している基本的な概念について学びます。</p> <p>しかし、過去の思想を個別に知識として学ぶのでは、それを現実の行動に活かすすべについて考えるのは難しいでしょう。そこでこの授業では、私たちが教育について陥りがちな思考のワナを10に絞り、そこから教育の歴史のなかでどのような考察がなされたのかを学び、現代教育の基本的な概念につながっていることについて考えます。</p> <p>広く深く学ぶため、テキストブックを指定し授業時間外の学修を確保し、授業では事前の学修を前提に講義を行うほか、映像の視聴やグループディスカッションを取り入れます。到達目標1に関しては、基礎的な事項を確実に修得するという観点から第7回と第14回の授業で振り返りのテストを実施・解説します。到達目標2、3に関しては、第15回の授業で行う振り返りのディスカッションをもとにレポートを作成してもらいます。</p>
	教育相談の理論及び方法	3	◎	○		○	<p>学校で行われる教育相談の意義を理解し、具体的な進め方が習得できるよう、幼児、児童及び生徒の発達を理解した上で、支援をするために必要な基礎的知識の習得を目指す。具体的には、①全幼児、児童及び生徒を対象とした日常的な学校教育場面での教育相談のあり方について理解を深め、実施できること、②課題を抱えた幼児、児童及び生徒を理解し支援する姿勢を養うこと、③保護者や学校以外の専門機関との連携の必要性を理解し連携できることの3つの力を習得するを中心に授業を行う。そのために、グループでの発表や討議を通して考察を深めたり、カウンセリングの技法やアセスメントを学んだりといった体験を取り入れ、実践力を養う。</p>
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	3	◎	○		○	<p>通常の学級にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難さを理解し、個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や指導方法を学ぶ。</p>

教育学科 専門科目 (2022年度以降第1学年次入学者適用)

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要	
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている		
学科基礎	入門ゼミ	1			◎			○	前半は合宿型ゼミの中で、教師の資質・責任、教員という職業の業務内容、やりがい・魅力を、現在学校現場で活躍している卒業生を交えて、意見交換し教職に対する自身の考えを認識する。また、高校とは異なる「大学での学び方」を学ぶ。合宿型により、同期の学生間の仲間意識および連帯感を醸成する。後半では、複数の教員による講義を中心に、大学生として重要となる基礎知識や論理的な考え方、社会的な常識等に関して学ぶ。	
	教育学基礎演習 1	3	◎	◎				○	1年生での教育に関する学習を踏まえ、教育学に関する基礎的な内容について、少人数で、学習を深めていく	
	教育学基礎演習 2	4	◎	◎				○	専門的学習への礎となる教育に関する学習を深めていく。その際、少人数での主体的・対話的で深い学びとなるように授業を展開する	
	教育心理学	1	◎	○					幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学の理論に基づいて認識を深める。また、具体的な保育・学校教育場面を想定しながら、子どもの主体的な活動を支援する保育者・教師の役割を明らかにしていく。	
	教育心理学 2	2	◎	○					幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学の理論に基づいて認識を深める。また、具体的な保育・学校教育場面を想定しながら、子どもの主体的な活動を支援する保育者・教師の役割を明らかにしていく。	
	教育社会学	1		◎			○		◎	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進したが、その反面で、さまざまな「ひずみ」や教育病理も生み出し、学級経営の課題となっていることが少なくない。本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「いじめ」「学力低下」「国際化」「教育改革」「若年就労問題」などである。
	教育社会学 2	2		◎			○		◎	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進したが、その反面で、さまざまな「ひずみ」や教育病理も生み出し、学級経営の課題となっていることが少なくない。本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「いじめ」「学力低下」「国際化」「教育改革」「若年就労問題」などである。
	教育哲学	2		◎					◎	教育は現在と未来の人生にとって不可欠な営みですが、ではなぜ過去の思想を参照する必要があるのでしょうか。「木を見て森を見ず」という言葉がありますが、教育は眼前の課題であり、それに対応しようとするあまり、全体的・総合的にとらえられなくなってしまうことが少なくありません。この意味で、過去の思想は、少し距離をとりながら現実の思想を見つめるための止まり木として有効なのです。また、深く広く物事を考えた思想家の歩みについて理解を深めることは、知識基盤社会においてもっとも重要な能力とされるリテラシーを高めるためにも有効です。 この授業では、広く深く学ぶため、テキストブックを指定して授業時間外の学修を確保し、授業では事前の学修を前提に講義を行うほか、映像の視聴も取り入れます。到達目標に関しては、第14回の授業で小論文の作成を行い、第15回の授業でフィードバックを行います。
	教育史	1		◎					◎	教育にかかわる思想や制度がどのように変遷してきたか、日本と西洋を比較しながら歴史的に考察する。授業は日本教育史を中心に置き、明治維新後の教育の近代化、1945年敗戦後の教育改革を2つの柱として進め、教育史上の特徴的な人物・機関・法令等に関する思想や理念に関する基礎的な用語を習得する。現代の教育のあり方に関心を持ち、その問題点について考察する力を身につける。
	教育人間学	3	○	◎						「教える・学ぶ」ということでは、教育は交換の一形態のように見える。教育が交換であるなら、教育は「発達」や「社会化」といった概念の下、通常科学で捉えることができるが、そのような理解は教育の不思議さを隠蔽することになる。しかし、教育の「起源」を考えると、教育は違った姿を示すことになる。理論的な起源論を考えるかぎり、教育は「贈与の一撃」にはじまるというしかない。この一切の見返りを期待しない贈与という事象は、これまで教育学で問われることのなかった人間学的事象である。漱石・賢治の作品を手がかりに、贈与と交換について教育人間学の立場から考察し、同時に贈与と交換から教育人間学について考察する。
	教育行政学	1		◎				○		法律などの形で示された理念や教育政策をいかに効果的に実現していくのか。それを考え、具体化していくのが教育行政の役割である。近年、教育行政・制度は大きく変化している。授業ではまず、これまでの改革の経緯も踏まえて、現在どのような形で教育行政・制度が成立しているか、その全体像を広く理解することを旨とする。そのうえで、現状の制度の課題を踏まえ、より効果的な行政・制度のあり方について考える。
	教育行政学 2	2		◎				○		教育行政学で学習した学校における制度的・行政的事項についてさらに議論を深める。特に、「チームとしての学校」答申に注目し、今後の学校に期待される多職種連携・地域との協働に関して、現在どのような制度的・社会的状況にあるかを把握したうえで、今後の行政・制度のあり方について議論を行う。
臨床教育学	3	○	◎						近年、わが国の人文・社会科学の分野では、「臨床の知」あるいは「フィールドワークの知」に対する関心が急速に高まっている。それは教育界とて例外ではない。個人が抱える問題を、個人が生活する場との関係で把握しなおし、家族や学校の他のメンバーに働きかけて問題の解決を図ろうとする「関係論」的、あるいは「システム論」的な見方が注目されるようになってきている。 学校臨床教育学では、子どもと教師の人間関係や子どもと親の人間関係、子どもと社会との関係などの視点から彼らの成長の道筋をたどり、今、学校で起こっている事象についてどのような解釈が成り立ち、その背景となる臨床事例にどのようにアプローチしていけばよいのか考える道筋をたてることのできるようになることを目的とする。	
学校経営論	3			◎				○	現在、学校現場を取り巻く問題は多数存在する。「いじめ」「不登校」といった社会的な問題をはじめ、保護者対応や教員倫理の問題等、よりより学校を運営していく上での課題は多い。本講座では、こうした現代の教育課題を踏まえ、学校経営についての概説、事例を通して、これからの学校経営に必要な視点について総合的に学ぶ。	
学級経営論	3			◎				○	学級担任は、学級集団の支持的風土の醸成を目指し、経営計画を立案し、実施する。ここでは、ハード面、ソフト面から各学級の実情を考慮し、よりよい学級づくりを進めることが求められる。本講座では、こうした現代の教育課題を踏まえ、学級経営についての概説、事例を通して、これからの学級経営に必要な視点について総合的に学ぶ。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科基礎	発達心理学	3	◎	○					幼児、児童及び生徒の心身の発達過程について、心理学の理論に基づいて認識を深める。具体的には、① 養育者とのかかわりによって子どもの情緒が安定し、身体運動および知的運動能力の発達が促される、② 養育者・保育者から受け止められる経験を通して子どもの健全な自我が形成され、仲間とのかかわりのなかで自己表現の力が養われる、③ 教師や仲間との率直なコミュニケーションを通して自己表現の機会が保証されることによって、子どもの知的発達・自己認識が促される、の3点について、具体的ななかかわり場面を想定しつつ考察を加える。
	比較教育学	3		◎		○			私たちは日本の教育制度のなかで、小学校から大学まで教育を受けてきたものが大多数である。日本の教育の当事者として私たちは日本の教育をよく知っていると思いがちであるが、外国の教育のさまざまな側面と日本を比較することによって、日本の教育の新たな特徴や、これまで気づかなかった特異性を自覚することがある。本講義では、毎回教育の異なるトピックを取り上げ、それについて比較教育学の最新の知識を提供することによって、受講生は世界の主要な国々の教育の最新の動向や課題を知り、それぞれの国の教育の持つ特徴や独自性、固有の風土、地域連携や学校安全への取り組みなどを理解するとともに、自分なりの新たな日本の教育の位置づけについて考察する。
	教育法規	3		◎		○			学校教育は、公教育として国の法令や自治体の条例・規則で運営されている。このことを踏まえ、教員が行う日々の教育活動が法的根拠に基づき、法的な裏付けのもとに行われている事を確かめる。また、コンプライアンス(法令遵守)の視点から、教員としてとらねばならない行動や対応を、具体的な事例を通して考える。
	教育評価論	3		◎			○		評価とは、学習指導によって得られた結果が、指導の目標に到達しているかどうかをみることである。このことは、学習によって生じた変化を目標に照らして判定し、その後の学習指導をどのようにしたらよいかを考える一連の過程でもある。指導と評価の一体化が求められる今日の状況を踏まえ、本科目では、教育評価に関する基本的な考え方とともに、授業に生きるスキルを身につけることを目指す。
	学校教育職入門	1			◎				今日の学校に見られる教科指導・生徒指導上の諸課題や中央教育審議会など各種の審議会答申で求めている教師の仕事と役割、及び教師として理解しておきたい教育法規等について、テキスト・配布資料をもとに、講義を主とした授業を考えている。
	障害教育総論	3		◎			○		現在、障害のある子どもの教育はすべての学校教育において重要なものになっている。そのため、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害、言語障害といった障害のある子どもの教育の変遷を知り、特殊教育から特別支援教育に移行した意義を理解する。また、特別支援教育の理念や概要を知り、特別支援教育における教育課程を理解した上で、特別支援教育で求められる教育支援について学ぶ。障害者の権利に関する条約の批准と国内法等の環境整備、障害者差別解消法が目指す社会についても学び、障害を取り巻く情勢や特別支援教育における今日的課題についても考察する。
学科専攻	教育学演習1	5	○	◎		◎		◎	教育学研究を推敲していくための基盤を養う。先行研究をはじめとした文献の調査・発表・討議を中心に行い、教育学研究の基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、自らの研究の方向性を模索する。個別研究や集団討議を重ねることで多様な考え方に触れ自身の研究能力の向上につなげる。
	教育学演習2	6	○	◎		◎		◎	教育学演習1を踏まえ、卒業研究を進める上で必要となってくる基礎的な知識・技能を身につけ、思考力・判断力・表現力を養う。研究テーマに近い研究論文を例として、目的と方法を理解し、データの収集、データの分析、結果のまとめ、考察までの一連の流れを追試する。個別研究や集団討議を重ねるとともに、教育・保育の研究基礎力を身につける。
	卒業論文演習1	7		◎				◎	卒業論文を進めるにあたって、研究テーマの設定、研究計画の作成、文献調査・収集、実験等の方法、調査・分析方法など、研究の進め方とその実践について学ぶ。具体的には、先行研究の調査、目次(章節立て)の素案作成、実態調査、教材開発、授業分析、データの収集・分析を行っていく。
	卒業論文演習2	8		◎				◎	卒業論文演習1で実施した研究を進め、得られた結果を図表で表示し、発表・討議を通して研究成果を卒業論文としてまとめる。ゼミ活動での研究討議を行い、研究の集大成として卒業論文の執筆を行う。加えて抄録の作成や研究発表の方法についても学びます。
	卒業論文	8		◎				◎	4年間の大学での学びの集大成としての卒業論文を執筆・提出する。卒業論文は、教育学に関する諸科目の学修と教育実習など実施を踏まえ、教育学基礎演習1,2、卒業論文演習1,2で培った研究能力をもとに、自らの研究テーマに沿った必要な研究指導を受けた上で提出される。研究内容に関する試問を受け適切に回答を示すことが求められる。
	人権(同和)教育	3		◎	○				ワークショップやフィールドワークを通して被差別部落問題の現状と今日的課題を考える。また被差別部落を含む小中学校などにおける人権同和学習の参観、保育所や児童館における子どもの人権保障に関わる保育参観・観察・参加、また夜間中学校・朝鮮学校での観察参観とおして識字学習・異文化教育の実践に学ぶ。
	ICTの活用及び教育	3		◎			○		学校教育でICTを活用するためには情報機器、ソフトウェアが使えることはもちろんのこと、実際の授業の中で実践できる必要がある。本授業ではICT活用教育の現状を理解すると共に、主要な情報機器、ソフトウェアの利用技術、および実際の活用事例、活用する際の利点と配意点について学習する。 授業では、学生が有する情報機器を用いたリアルタイム質疑応答システム、eラーニングシステムを併用する。
	学校教育課程論	3		◎				○	日々の教育実践のフレームワークである教育課程についての主な論点を学び、基礎的知識を身に付けることを目的とする。
	教育方法論 (ICT活用含む)	3		◎			○		求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、情報活用能力を活用した課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。また、GIGAスクールやMEXCBTによる将来の教育構想を理解し、ICT活用の意義と理論に基づいて、授業や校務でのICT活用を実践できるようになるための方法と技能を学ぶ。技能習得として、学校に実際に導入されている授業支援システム、電子黒板やデジタル教科書、プログラミング教育の演習も行う。 講義の後、毎回グループごとの意見交換を設け、毎回出される課題について意見交換する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科専攻	教育方法論（ICT活用含む）2	3		◎		○			世界的に求められる児童生徒の資質・能力を育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解、定着、応用した発展的な教育方法と技術、主体的な学習能力を育成する教育方法と技術、児童生徒の発達段階に応じた教育方法やICT活用を含めた柔軟な教育方法を学ぶ。特にGIGAスクール構想やMEXCBTなどの国の教育方針の内容を理解し、学習履歴に応じた個別学習の支援、および協調学習支援のための多くの学校に導入されている学習支援システムやプログラミングソフトを活用した教育方法を実践により学ぶ。
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2	○	◎			◎		今日の学校が抱える諸問題と生徒指導・進路指導への視点を理解する。学校教育では、教科指導と同等に教科外指導（生徒指導や進路指導）のもつ比重は大きい。この教科外指導を適切に行うためには、学校で起こっている様々な問題や、児童・生徒の変化を現象的に分析し、理解し対処することが求められる。本講義では、教師として教科外指導にどのような「教育観」を持つべきなのかという理論に発して、様々な学校病理現象をどのように理解するのか実践的に把握していきたい。特に学校病理現象の1つとしていじめの問題を取り上げ、現代を象徴する「ネットいじめ」といった喫緊の課題についても論じてみたい。進路指導のテーマの中には、近年問題視されているフリーターやニート問題も取り上げ、学校から社会へのトランジションという視点からキャリア教育の必要性について言及したい。
	特別活動の指導法	3		◎		○			特別活動は、教育課程の一領域として重要な意味を持ち、家庭や地域社会との連携も視野に入れつつ、各学校で創意工夫を発揮して取り組まれるものである。本講義では、現代の家庭や地域社会の特質、個人と集団のとりえ方等の理解を踏まえながら、学級活動、生徒会活動、学校行事といった特別活動の主領域について考察していく。また、必要に応じて実践事例を取り上げながら、特別活動の目標を達成するための具体的な方法や技術についても考察していく。
	道徳の理論及び指導法	3		◎		○			「特別の教科 道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に対応して、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、模擬授業を行うことによって道徳教育の指導力の基礎を培う。
	総合的な学習の時間の指導法	3	○	◎					総合的な学習の時間の導入背景、意義と教育課程での位置づけを学ぶ。総合的な学習の真の効果を上げるために、学校内横断的なカリキュラムマネジメントに基づく年間指導計画、単元計画の作成が重要となる。その作成の考え方や実際の作成法を学ぶとともに、教科学習からより深い探求的な学びを行う学習過程と学習行動の指導法および評価法を学ぶ。さらに、小学校での総合的な学習事例から、実践に応用できる知識・技能を学ぶ。
	国際理解教育演習	3		○		◎			ハワイ大学マノア校(ホノルル)で行う研修(2月下旬の2週間)を中心的な活動に据え、小学校英語の教授法を学びます。ハワイ大学教育学部は、これまでに、英語を母語としない子どもたちに対する英語教育に特化した様々なカリキュラムを開発してきています。この講座では、そのハワイ大学において、指導経験豊富な教授陣が、同じく英語を母語としない日本の子どもたちに向けた小学校英語の教授法を、日本の小学校英語教材「We Can!」を用いて展開していきます。研修前には、英語コミュニケーション力を高める活動も行います。また、「We Can!」を用いた授業実践を議論し、「We Can!」付属のICT教材を活用した授業を実際にデザインしていきます。現地でのさまざまな研修プログラムに参加し、現地の小学校での授業実践を最終到達点とします。
	初等教育内容国語	1		◎					本授業では大きく以下の2点の内容を扱う。 ○小学校における国語科の教材分析や授業実践に必要な「話す聞く」「書く読む」などの言語運用力及び言語感覚 ○小学校における国語科の教材分析や授業実践に必要な「言葉の特徴や使い方」、「情報の扱い方」、「我が国の言語文化」に関する背景的な知識や技能 これらについての理解を深めるために、実際の教科書教材などを取り上げながら講義を行う。受講者の主体的な学び合い活動を重視しつつ、授業をデザインしていく。
	初等教育内容社会	1		◎					「小学校社会科ってどのように教えればよいのか?」という問いについて考える。前半は、小学校教師としての役割や仕事内容等について自己の経験や提示した資料を手がかりに「社会科の教師」としてのイメージを明らかにしていく。後半は、学習指導要領及び解説編・教科書を読み解きながら小学校社会科の目標や内容、教材開発の方法等「どのように展開するのか?」について小集団での討論や演習を中心に理解を深めていく学習を展開する。本講義を通じて小学校社会科教育概論及び教科内容研究を学習の対象とする。
	初等教育内容算数	1		◎					算数教育を行うにあたっては、単に解法を教えたり、記憶・習熟を繰り返したりするだけでは十分ではない。算数を教育する意義と目的を明確にして、数学的な見方・考え方の育成を重視した授業を設計していく必要がある。そこで、算数の数学的背景となる内容を取り上げることを通じて、授業実践への基礎を築く。
	初等教育内容理科	1		◎					小学校理科を指導するのに必要な、観察・実験を重点に授業を行い、観察・実験の技能を習得し、教育実践現場で自信をもって授業実施できるスキルを養成するための授業を主体に進める。
	初等教育内容生活	1		◎					生活科の授業形態を講義に取り入れ、生活科の目標・内容に関する理解を教材に直接的にかかわることを通じて深め、授業実践に必要な知識・技術・指導力・教材開発力、さらに児童理解力を学ぶ。
	初等教育内容音楽	1		◎					小学校学習指導要領音楽編における教育内容、とりわけ各学年の「共通事項」の基本理念をふまえ、小学校音楽科授業を行う上で必要となる音楽能力の基礎を培う。音楽用語や楽典の理論を、演奏や表現に結びつけることができる等、主として教師としての音楽能力・表現能力の向上につとめる。
	初等教育内容図画工作	1		◎					小学校図画工作科の目標や内容について、具体的な題材を通して理解し、授業実践に向けての基礎的な能力を身につける。学習指導要領図画工作科の目標にある「感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう」ということを大切にして、どのようにすれば、「感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう」授業は可能なのか。実際の小学校の題材にふれ、制作する中で、指導内容や指導方法についての理解を深める。
	初等教育内容家庭	1		◎					家庭科では社会や時代の変化、児童の実態に合わせた適切な指導が求められる。そのために、基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、広い視野から幅広く内容を理解出来るように学習する。本講義では、生活者の視点から今日の生活問題の状況を捉えて、家族の生活や衣食住、消費と環境に関連する学習で知識を深める。さらに習得した知識やスキルを活用して課題に取り組む。
初等教育内容体育	1		◎					小学校体育科の授業の進め方、考え方について、実際の運動活動や講義を通して学習する。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要	
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている		
学科専攻	初等教育内容外国語	1		◎					小学校で英語を教えるのに必要な英語力はどのようなものであるかを、ICT教材などを通して体験的に学ぶ。また実際の英語力向上につなげるためのワークショップを行う。	
	初等国語教育法	3		◎				◎	小学校における国語科教育の目標及び内容について理解するとともに、児童の学習の実態や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を身に付ける。	
	初等社会教育法	3		◎				◎	講義や具体的な授業事例の分析・開発を通して、「小学校社会科学習指導のあり方」や「学習指導案の意義と様式」について理解を深める。最終的には各自で学年と単元を設定し、学習指導案の作成をする。本授業は、構成主義・協働学習論に基づいて運営することとする。	
	初等算数教育法	3		◎				◎	算数教育に対する数学的背景・理論・指導法等の理解及び、それらを活かした教材研究を行えるようになるための基礎的知識と基本的技能及びその考え方について考察する。	
	初等理科教育法	3		◎				◎	小学校理科教育の理論と実践について授業を進めます。A区分：物質・エネルギー（エネルギー、粒子）、B区分：生命・地球の観察や実験の授業を取り上げ、授業づくりの視点や方法について学んでいきます。安全な観察・実験の方法を学びつつ、学習指導案を作成し模擬授業を実施していきます。	
	初等生活教育法	3		◎				◎	小学校学習指導要領解説生活編(H29.6)より、目標と内容の構造を理解し、それに基づき2単元（学校と友達になろう・けん玉を作って遊ぶ）について情報機器の活用を生かした体験的な教材研究と具体的な学習指導案を作成し、模擬授業等を通して互いに評価し合って修正し、よりよい学習指導案へと高める意欲と立案力を身につける。	
	初等音楽教育法	3		◎				◎	本講義は、学習指導要領をめぐって、音楽科授業づくりの基礎理論、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、特別支援教育と音楽科（音楽療法）、学級経営と音楽科、といったテーマを中心に授業を展開する。このテーマに基づき、模擬授業や学習指導案作成を通して音楽科授業づくりの力量を高める。	
	初等図画工作教育法	3		◎				◎	学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業をする中で、具体的な授業場面を想定した授業設計の力を身に付ける。第1~2回において図画工作科の目標や内容や授業設計の在り方について学び、第3~8回において、題材開発、教材研究、演習等を通し図画工作科の内容・領域の理解を深める。第9~12回において、グループで共通題材を選定し、演習を通して各自学習指導案を作成する。第13~15回において、各グループの代表1名が、書き上げた学習指導案をもとに模擬授業を行い、全員で事後研究会をする中で、授業設計の力を身に付けることを目指す。	
	初等家庭教育法	3		◎				◎	家庭教育の変遷と学ぶ意義を理解し、小学校学習指導要領の家庭科における目標及び内容を把握する。さらに家庭科の背景となる家政学等との関係や家庭科を指導する知識と技術について学び、中学校の技術・家庭科の内容と双方向の見通しを持って、小学校家庭科の指導者として授業場面を想定した授業を構成し指導案を作成し評価する実践力を養う。	
	初等体育教育法	3		◎				◎	小学校体育科の特質と目標、学習指導要領の変遷、内容と指導方法についての知識を習得する。小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳運動、ボール運動、表現運動、保健）を理解することで教師として自己成長するための方法を探究する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び、模擬授業等を通して指導のポイントを習得する。	
	初等外国語教育法	3		◎					◎	小学校で外国語を教えるのに必要な理論的知識を、ワークショップや模擬授業を通して具体的、実践的に学ぶ。
	中等教科教育法社会 1	3		◎					◎	前半では、社会科教育・中学校社会科の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。 後半では、平成29年版学習指導要領社会科の「目標」「内容」「内容の取扱い」に基づき教材研究と板書計画作成を行う。
	中等教科教育法社会 2	4		◎					◎	「中等教科教育法社会1」の学習内容に基づき、前半では、平成29年版学習指導要領社会科の「目標」「内容」「内容の取扱い」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。 後半では、模擬授業実施と授業省察を通し、社会科教育の本質と学習指導要領における社会科の性格についてさらに理解を深める。
	中等教科教育法社会 3	3		◎					◎	「中等教科教育法社会1」「中等教科教育法社会2」の学習内容をさらに深化し、地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれにおいて、学習指導要領の「内容」に基づく教科内容研究を行う。
	中等教科教育法社会 4	4		◎					◎	「中等教科教育法社会1」「中等教科教育法社会2」「中等教科教育法社会3」の学習内容の総括である。具体的には、地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれにおいて、学習指導案を作成し模擬授業を行う。そしてその事実を省察することにより、中学校社会科学習指導のあり方について考えを深める。
	中等教科教育法数学 1	3		◎					◎	中学校・高等学校における生徒の学力が課題となっており、生徒の実態に応じた授業運営ができる資質が教員に求められている。そこで、数学教育の課題を明らかにし、授業研究のあり方について考察する
	中等教科教育法数学 2	4		◎					◎	中等教科教育法数学1を基盤として、学習指導の理論に基づいて中学校、高等学校における数学の授業研究を行う。これらの活動を通して授業設計を行う方法を身に付ける。
	中等教科教育法数学 3	3		◎					◎	数についての積極的な働きかけを行う代数学の話題を主に議論するが、幾何学的、解析学的なアプローチも援用し、「数学」という学問の総合的な理解を目指す。また、身の周りに応用されている数学についても深く考える機会を持ち、数学の汎用性と有効性を体得する。各単元において教材研究の方法を議論し、教材の活用、指導案作成、模擬授業の実践に有機的につなげていく。また、教材研究に向けた情報機器の活用として、モジュラー計算や抽象代数計算を行うことができるソフトウェアの運用方法についても解説する。
	中等教科教育法数学 4	4		◎					◎	幾何学、解析学の話題を主に取り上げるが、代数学との深い関わりについても議論していく。単元の文字通りのテーマにとらわれない「自由な視点」を持って、数学の体系的な理解を目指す。日常事象に潜む数理構造についても深く考える機会を持ち、「数学のことで世界をみる」ことの愉しみを体得する。各単元において教材研究の方法を議論し、教材の活用、指導案作成、模擬授業の実践に有機的につなげていく。また、関数領域や幾何領域において、情報機器を用いた（2次元、3次元グラフの描画ができるソフトウェアの運用を含む）授業作りの具体的方法を習得し、模擬授業に取り入れていく。
	日本史概論	1		◎					◎	大学で学ぶ歴史学はこれまでの歴史の学習とは大きく異なるだけでなく、現在持っている歴史の知識も、これから始まる専門的な学修を考えた時に、決して十分とはいえない。この講義では、歴史学の基本的な考え方・方法に基づき、担当教員が日本史の各時代を理解するうえで重要と考えた事象を取り上げ講義する。講義の内容を理解するなかで、今後の専門的な学修に際して基礎となる日本史の知識を習得するとともに、学問としての歴史学の基本的な考え方方法を理解する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科専攻	日本史特論	2		◎				◎	日本史概論の学修を通じて日本史各時代の最低限の知識を身につけ、歴史学（日本史学）の基本的な考え方・方法の一端に触れた。本科目では、もう少し専門的な内容に踏み込み講義する。時代によって取り上げる問題や内容は異なるが、日本史の各時代を理解するうえで基礎となる重要事項であることには変わりはない。講義の内容を理解し知識を広めることに加え、専門課程での学修を見据え、複数の事項を関連づけたり、背景を考えたりするなどして、歴史学の考え方や方法の基本となる思考に触れてみて欲しい。
	東洋史概論	3		◎				◎	本講義では、東洋の歴史、とりわけ中国の歴史について、古代から近代まで大まかな流れに沿って学修する。中国は、古代から近代にいたるまで、日本の歴史と深いかかわりを持ってきたが、その歴史や、培われてきた社会・文化は、日本とまったく異なる。中国における王朝ごとの基礎的な歴史用語の解説を進めながら、その王朝の歴史や文化の特徴を学ぶ。また王朝の移り変わりを理解し、中国史の概略を学び、歴史の多様性を学修する。
	西洋史概論	1		◎				◎	グローバルな関係性が張り巡らされた現代社会のなかで、西洋文明の理解は日本人にとって不可欠である。本講義では、その中核をなすヨーロッパ文明について、その形成期に重点をおきながら通時的に歴史を概観する。そうすることで、そこに生きた人びとの文化やものの考え方の特徴を学ぶ。加えて、講義中に紹介される史料の解説を通して、各時代と社会の具体的なイメージをつかみ、他者たるヨーロッパに対する理解を深める。
	法学概論1	1		◎		○			人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、それが「法」と呼ばれるようになる。この授業では、私たちの生活に対するルールとして機能する基本的な「法」を紹介する。その上で、現行法制度の紹介にとどまらず、その限界事例での法的な考え方について解説したい。
	法学概論2	2		◎		○			人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、「法」と呼ばれるようになる。そうした「法」により規律される空間においても限界事例が生じる。このような限界事例において、憲法上の権利がどのように機能しうのか、という点について取り扱う。もっとも、授業時間の制約上、すべてを網羅的に取り扱うことはできないが、できるだけ身近な問題を取り上げながら授業を進める予定である。
	国際政治学	1		◎				◎	国際社会における国家の政策や安全保障などの国際政治の歴史を踏まえ、国際政治学の概念や理論を学ぶ。また、これらを踏まえた現代の国際問題を考察する。
	社会学概論	1		◎				◎	多様な形で現象する現代社会の出来事を疑い、捉え直し、社会学とは何か、何が出来るかを考える。 講義では、社会学における歴史的展開を概観し、いくつかの社会学の領域をとりあげて、具体的な現象を検討しながら人間関係や世の中のしくみを読み解いていく。
	経済学概論	1		◎				◎	経済学の基礎理論、歴史をふまえて、日本経済の現状と経済政策を理解する。 授業では、戦後復興から高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊に至る日本の経済システムの特徴や、人口減少や高齢化が進む日本の現状を把握する。また、経済のグローバル化の進展と今日的課題を考える。経済とは何か政府や企業の役割といった幅広い領域にかけて、経済全般を見る目を育てていく。
	哲学概論	2		◎				◎	哲学は一見、抽象的な議論のつらなりであるが、議論は日常の経験に根ざしている。哲学の主要な議論を生活空間のなかから理解していくことがこの講義の目的である。20世紀の現象学や解釈学の立場を軸としながら進みたい。①哲学と日常性②物との関わり③人間と空間④歴史と風土
	宗教学概論	1		◎				◎	宗教の本質については様々な見解が見られるが、これらを紹介しながら分析する。近代哲学はカントによる魂の実体性の否定によって、一つの頂点を迎える。この、キリスト教神学による魂不滅の信仰への痛打が、どう受け止められたかを中心に考察を進めていきたい。①宗教の定義②物との関わり③人間と空間④歴史と風土
	倫理学概論	1		◎				◎	西洋では多様な倫理思想が生まれたが、ここでは19世紀、デンマークの哲学者、キェルケゴールの思想を分析する。キリスト教神学や近代哲学がどのように彼の思想に関連するかを考察しながら、現代におけるその有効性を問うてみたい。①倫理学とはなにか②キェルケゴールの生涯と著作③道徳哲学者としてのキェルケゴール④近代哲学のなかでの位置づけ。
	代数学概論1	1		◎				◎	比例、1次関数、連立1次方程式などの話題を発展/拡張させたところにある線型代数学について、その基礎を学んでいきます。ベクトルを理解し、行列の概念を導き、それらの関わりについて学びます。また、直線や平面などの高等学校で学んだ幾何学的対象について、線型代数学の観点から議論していきます。行列演算に習熟し、連立1次方程式の理解を深めていきます。行列式とその性質を理解し、その幾何学的な応用についてまで理解を広げていきます。
	代数学概論2	2		◎				◎	代数学概論1の実践的な基礎を受け、線型代数学の学習をさらに深めていきます。線型代数学の核心部分である、線型独立/従属、基底や次元の概念を習得します。線型空間の間の写像を学び、行列そのものの理解を深めていきます。行列の固有値、固有空間を学び、さらに、それらの様々な応用について議論を展開していきます。
	代数学特論1	3		◎				◎	代数学のみならず、「1種類」の操作(演算)について、その相互の関わり合いを記述する概念である群(ぐん)について、その基礎を学習します。抽象代数学への第1歩となるものですが、具体例を多く取り上げ、群の理解を深めていきます。
	代数学特論2	4		◎				◎	複素数に関して、高等学校で学ぶ基礎的な内容からはじめて、主に、その代数的、幾何学的な側面を概観します。複素平面を舞台に繰り広げられる、複素数ならではの面白い性質を議論していきます。みなさんの数学の世界を広げてもらうことを意識して、高等数学の発展的な内容も積極的に取り入れていきます。
	代数学演習	3		◎				◎	整数論の初歩を学習します。初等整数論は数学教育においても重要な項目の1つです。数とその四則演算のふりかえりからはじめて、整数に関する話題を議論していきます。「割り算とその余り」という既知の概念を再訪/熟考し、整数の「合同」という概念へと発展させます。合同という視点で眺めた世界で成り立つ美しい定理のいくつかを紹介していきます。発展的な応用として、今日のインターネット暗号化技術で欠かせないRSA暗号の話題も議論します。また、数の拡がりという観点で、p進数についても議論します。
	幾何学概論1	1		◎				◎	集合・写像・論理・同値関係・集合の濃度など、数学の基本事項について学んだのち、これらを用いて平面(2次元ユークリッド空間)の部分集合としての図形の同値関係などを再考する。
	幾何学概論2	2		◎				◎	一般次元のユークリッド空間と距離空間について学ぶ。開集合・閉集合、内部・外部・境界などの幾何学の基礎用語を習得したのち、一般的な距離空間の概念とその応用を考える。
	幾何学特論1	3		◎				◎	位相幾何学の基礎・入門。曲面の分類、2次元多様体

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要	
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている		
学科専攻	幾何学特論 2	4		◎				◎	微分幾何学の基礎・入門。曲線・曲面論	
	幾何学演習	3		◎				◎	2次元ユークリッド空間、図形の同値関係 幾何学概論1Hで学んだ、集合・写像・論理・同値関係・集合の濃度などの数学の基本事項および、2次元ユークリッド空間についての演習	
	解析学概論 1	1		◎				◎	1変数関数の微分・積分は高校生の数II、数IIIを履修した者なら既にある程度は既知であると思われる。本講義の範囲は、高校において学んだ微積分をもう一度学習し、それらがどのような理論的土壌において成立しているのかをより深く学ぶことである。また、その上でより高度な微積分の知識も学習する。	
	解析学概論 2	2		◎				◎	1変数の微積分を2変数に広げたとき、同様のことが成立する場合とそうではない場合が生じる。また、2変数に拡張することにより立体の体積や表面積も計算できることになる。本授業のねらいは、数学の広がりを体感し、数学への興味を深めようを目指すことにある。受講生の偏微分・2重積分の理解が目的である。	
	解析学特論 1	3		◎				◎	「解析学概論1」で学んだ極限についての扱いについて、更に数学的に厳密な扱いを学ぶことを目的とする。具体的には、 ε - N 論法や ε - δ 論法を用いて数学における収束・発散を厳密に定義し、その定義を用いて極限の扱いを改めて学び直すことを目的とする。加えて、複素関数の微分・積分を学習し、解析学に関するより包括的な知識を得ることも併せて目的とする。	
	解析学特論 2	4		◎				◎	微分・積分の最も重要な応用対象の一つである、微分方程式について学習する。 微分方程式は物理的現象、社会的現象を数理モデルで表現する際に最もよく用いられる数学的概念の一つであり、その解法や具体的な応用例を学ぶことで、これまで学んだ微分・積分がどのような分野で用いられているかということに対してより広い視野を得ることを目的としている。	
	解析学演習	3		◎				◎	1変数関数の微分・積分に対する問題演習を行い、具体的な計算能力や抽象的な思考能力の成熟を目指す。数学において実際の問題に対する解決能力を有していることは、単に問題を解けるというだけでなく、数学という学問そのものに対する理解を深めるためには不可欠である。 対象範囲は「解析学概論1」で扱った範囲全般に及ぶため、該当科目を同時に履修することが望ましい。	
	確率論 1	1		◎					◎	基本的な確率論について学ぶ。離散的確率と連続的確率の基本概念および性質を把握する。
	確率論 2	2		◎					◎	離散型確率分布および連続型確率分布について学ぶ。一般に知られている代表的な確率分布について学ぶとともにそれらの分布の関連性や、統計学につながる理論的な知識を養う。
	基礎統計学 1	3		◎					◎	社会統計は、記述統計と推定（推測）統計の2種類に大別される。前者は調査の結果得られたデータを要約することであり、後者はその要約に基づいて直接調査していない対象をも含む母集団全体を推定することである。この授業では前者の記述統計の基本的な考え方と方法について学ぶ。一口に記述統計と言っても範囲は広いが、この授業では特に社会学分野で必須となる離散変数の集計法（度数分布表・クロス表・エラーレーションなど）に力点を置いて学んでいく。授業は教科書・板書などによる講義と、電卓やパソコンを用いた実習で構成される。講義では基本となる考え方や概念について学び、実習ではその考え方や概念に基づいて、実際に自分で集計・計算・図表の作成を行う。
	基礎統計学 2	4		◎					◎	社会統計は記述統計と推定（推測）統計の2種類に大別され、前者は調査の結果得られたデータを要約することを指し、後者はその要約に基づいて直接調査していない対象をも含む母集団全体を推定することを指す。この授業では、後者の推定統計の基本的な考え方と方法について学ぶ。一口に推定統計と言っても範囲は広い。この授業では特に社会学分野で必須となる離散変数の集計法（比率の区間推定・ χ 自乗検定など）に力点を置いて学んでいく。授業は教科書・板書などによる講義と、電卓やパソコンを用いた実習で構成される。講義では基本となる考え方や概念について学び、実習ではその考え方や概念に基づいて、実際に自分で集計・計算・図表作成を行う。
	確率論演習	3		◎					◎	確率論と統計の基礎的な演習
	基礎統計学演習	5		◎					◎	統計分析ソフトであるSPSSおよびAmosを用いて、実際のデータを使って「要素は何か」「違いがあるかどうか」「関係があるかどうか」「影響がどれくらいか」「因果関係があるか」について分析し、その方法と分析結果の解釈のしかたを学ぶ。具体的には「因子分析」「分散分析」「相関分析」「回帰分析」「パス解析」等を演習の中で学ぶ。
	プログラミング 1	3		◎					◎	コンピュータプログラムの基本的な考え方とアルゴリズムについて学習する。コンピュータプログラムとして基本的な言語であるC言語を用い、数学プログラムを作成する事によって、コンピュータを用いた数学事象の処理を行う。
	プログラミング 2	3		◎					◎	現在めざましい発達を遂げた情報通信ネットワークを念頭におき、HTMLおよびCSS、そして現在では多く使われているオブジェクト指向型言語の一つであり、第3世代言語と言われるスクリプト言語であるJavaScriptを用い、ホームページの作成を行うと同時にプログラミング言語に対する理解も深める。
	データ解析演習	4		◎					◎	高等学校教諭「情報」の免許取得に関わる科目である。この科目ではデータベースソフトの使い方を学習しつつ、データベースに関する基本的な知識を学ぶとともに、自分でデータベースを構築し、運営するための基礎的な技法を習得することを目指す。
	数学特別演習	5		◎					◎	個人、あるいは少人数のグループで、これまで学んできた「代数学」「解析学」「幾何学」「確率論」の分野のそれぞれから、発展的なテーマを1つずつ選び、議論していく。取り組むべき「正しい問題」を自ら設定するところからはじめ、新しい定理の創出を目的とする。個人、及び教室での議論を通じて、数学とはどのような学問であるかを真に体得する。
知的障害児の心理	3	○	◎			○			知的障害児の心理・行動的側面について、定型発達を基に学習する。特に、認知発達及び行動発達と知的障害児、知的障害児への支援、アセスメント、知的障害児を支える社会制度などについて学ぶ。	
知的障害児の生理・病理	3	○	◎			○			知的障害児の生理的、病理的側面について、定型発達を基に学習する。特に、脳の仕組みと発達、知的障害の原因、合併症、検査方法などについて学ぶ。	
肢体不自由児の心理・生理・病理	3	○	◎			○			肢体不自由児に関する心理学的情報と生理・病理的側面から、肢体不自由のある児童・生徒の心理・生理・病理についての基礎を学ぶ。また肢体不自由児に対する教育を行う上で考慮すべき随伴障害についても理解を深める。	
病弱虚弱児の心理・生理・病理	3	○	◎			○			病弱虚弱児・障害児の心理学的基礎、医学的基礎、支援システムについて学び、病弱虚弱児、障害児、そして子どもを取り巻く家族に対する適切な対応・支援方法を理解する。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科専攻	知的障害教育Ⅰ	3	○	◎		○			はじめに知的障害についての概念・定義などについて理解し、教育的支援の在り方について学ぶ。続いて、知的障害の特性を有した児童生徒への教育をめぐる、その教育環境などについて理解する。最後に、インクルージョンを志向する社会に向かって、知的障害のある人々を含みこんだ社会の在り方について検討する。今年度より施行された障害者差別解消法や合理的配慮についても学習する。
	知的障害教育Ⅱ	3	○	◎		○			昨今の特別支援教育の潮流を鑑み、知的障害のある子どもの特別支援学校・特別支援学級・通常学級における教育支援のあり方について学習する。
	肢体不自由児の指導法	3	○	◎		○			肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程及び肢体不自由の障害特性が、各教科等の学習に及ぼす影響について理解し、各教科や自立活動等の指導を行う際の原則や指導法の基礎基本について学ぶ。
	病弱虚弱児の指導法	3	○	◎		○			病弱虚弱教育の目的、対象、個別の教育支援計画、個別の指導計画、教育課程の類型等、病弱虚弱教育の基本について講義する。さらに、疾患別の指導法と病弱理解教育について解説し、その中で生じやすい教育的課題及び支援方法について考える。
	視覚障害教育総論	3	○	◎		○			視覚障害教育について総合的な知識を広げ見識を深める。 視覚障害はもっとも人数の少ない障害であり、視覚に障害のある子どもたちの中には、全く見えない子どもと見えにくい子どもがいる。見えない子どもたちは、指先を目として学び、見えにくい子どもたちは、保有する視機能を有効に活用しながら学んでいる。また、視覚以外の障害を併せ有する子どもたちもおり、重複した障害に配慮された教育のもとで学んでいる。これらの教育実践では、指導者の高い専門性と特別に工夫された教材・教具、教育課程、指導法等が不可欠である。 本講義は、視覚障害教育を中心に就学前の支援から労働、福祉にまで幅広く視覚障害児・者に関わる項目について概観する。 毎回の講義にて、次回の内容と事前の準備について説明するので、その指示に従って、次回の講義に臨むこと。
	聴覚障害教育総論	3	○	◎		○			聴覚障害の理解と教育の実際 聴覚障害教育に携わる教員に必要な基本的事項について学び、社会自立と社会を担う聴覚障害者の育成に必要な指導と支援の在り方を学習する。
重複障害・軽度発達障害児の指導法	3	○	◎		○			重複障害及び発達障害の理解と指導法の基礎基本を学ぶ。 重複障害児や発達障害児における教育的対応の歴史の変遷や特別支援教育における指導の実際から、それぞれの障害のある子どもに対する教育の現状と課題について理解し、双方の特別支援教育における指導の基礎・基本について学ぶ。	
関連	教育原論2	2		◎				◎	歴史のなかで現れてきた教育に関する思想を再検討することに何の意味があるのだろうかと思うかもしれません。しかし、教育は誰もが経験している日常的な出来事であるために、冷静に距離をとってとらえることは容易ではありません。そこで、離れた時代や社会における教育に関する思想を学ぶことは、教育をとらえ直すための助けになるのです。そこで、最初に教育を思想的に問う意味を考えたいので、教育思想の歴史を6回にわたって概観します。その後、コメンティスをとりあげて個別の教育思想について深く学び、それをもとに現代の教育課題について考えます。 テキストブックを指定しますので精読してください。後半のコメンティスの教育思想に関して一題のレポートを課したうえで、前半の教育思想史概説に関して最終試験を実施します。
	教育実習(幼・小)1	5	◎		◎		◎		幼稚園・小学校教育現場での学びをねらいとする。教育実習は、これまでで学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性づくり・授業(学習指導)のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業(学習指導)については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「事前の教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教職実践力を養う。
	教育実習(幼・小)2	5	◎		◎		◎		幼稚園・小学校教育現場での学びをねらいとする。教育実習は、これまでで学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性づくり・授業(学習指導)のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業(学習指導)については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「事前の教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教職実践力を養う。
	教育実習指導(幼・小)	5	◎		◎		◎		幼稚園・小学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。本授業では教育実習に臨む心構えを講義することからはじめ、具体的な授業の進め方、生徒指導の在り方等についても考え・協議する。教育実習に臨むにあたって、「教育実習研究」を6回の事前学習と2回の事後学習に分け、少人数でのきめ細かな指導を行う。
	教育実習(小・中)1	5	◎		◎		◎		小学校・中学校教育現場での学びをねらいとする。教育実習は、これまでで学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性づくり・授業(学習指導)のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業(学習指導)については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「事前の教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教職実践力を養う。
	教育実習(小・中)2	5	◎		◎		◎		小学校・中学校教育現場での学びをねらいとする。教育実習は、これまでで学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性づくり・授業(学習指導)のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業(学習指導)については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「事前の教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教職実践力を養う。
	教育実習指導(小・中)	5	◎		◎		◎		小学校・中学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。本授業では教育実習に臨む心構えを講義することからはじめ、具体的な授業の進め方、生徒指導の在り方等についても考え・協議する。教育実習に臨むにあたって、「教育実習研究」を6回の事前学習と2回の事後学習に分け、少人数でのきめ細かな指導を行う。
	教育実習(中・高)1	5	◎		◎		◎		中・高等学校の教育現場での学びをねらいとする。教育実習は、これまでで学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性づくり・授業(学習指導)のあり方・学級(HR)経営等について実践的に学ぶ。特に授業(学習指導)については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「事前の教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教職実践力を養う。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
関連	教育実習（中・高）2	6	◎		◎			◎	中・高等学校の教育現場での学びをねらいとする。教育実習は、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性づくり・授業（学習指導）のあり方・学級（HR）経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「事前の教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教職実践力を養う。
	教育実習指導（中・高）	5	◎		◎			◎	中・高等学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。本授業では教育実習に臨む心構えを講義することからはじめ、具体的な授業の進め方、生徒指導の在り方等についても考え・協議する。教育実習に臨むにあたって、「教育実習研究」を6回の事前学習と2回の事後学習に分け、少人数でのきめ細かな指導を行う。
	教育実習（特支）	6	◎		◎			◎	特別支援学校の教育現場での学びをねらいとする。教育実習は、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習においては、大学と実習先校との指導に基づき、障害のある児童生徒や保護者とのかかわり及び授業の在り方や学級づくり等について実践的に学ぶ。特に授業については、実習先校の指導教員からの指導を受けるとともに、主体的に「事前の教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して、自己評価と考察を行い、特別的教育ニーズに応じることのできる実践力の基礎を修得する。
	教育実習指導（特支）	5	◎		◎			◎	特別支援学校学校における教育実習に必要な基本的事項を学ぶ。本授業では教育実習に臨む心構えを講義することからはじめ、具体的な授業の進め方、生徒指導の在り方等についても考え・協議する。教育実習に臨むにあたって、「教育実習研究」を6回の事前学習と2回の事後学習に分け、少人数でのきめ細かな指導を行う。
	現場体験実習1	1	◎		◎			◎	幼・小・中・高・特別支援学校等学校教育現場および生涯教育現場における現場体験を通して、教育体制や教員の業務を体験、学習する。教育に関する専門的学習を踏まえ、平時の保育の観察実習から参加・体験的な実習を行うことによって、一日の保育の流れや活動内容を理解する。また、現場体験を通して幼児とのかかわりについて学ぶ。
	現場体験実習2	2	◎		◎			◎	幼・小・中・高・特別支援学校等学校教育現場および生涯教育現場における現場体験を通して、教育体制や教員の業務を体験、学習する。教育に関する専門的学習を踏まえ、園の行事や特別活動等の観察実習から参加・体験的な実習を行うことによって、行事の在り方や行事における幼児の様子と教師の役割について理解する。
	現場体験実習3	3	◎		◎			◎	幼・小・中・高・特別支援学校等学校教育現場および生涯教育現場における現場体験を通して、教育体制や教員の業務を体験、学習する。教育に関する専門的学習を踏まえ、観察実習から参加・体験的な実習を行うことによって、教職・保育職についての理解と幼児理解を深める。さらに幼児とのかかわりを通じてコミュニケーションスキルを高める。
	現場体験実習4	4	◎		◎			◎	幼・小・中・高・特別支援学校等学校教育現場および生涯教育現場における現場体験を通して、教育体制や教員の業務を体験、学習する。教育に関する専門的学習を踏まえ、観察実習から参加・体験的な実習を行うことによって、教職・保育職への志を高めるとともに、幼稚園教育実習にむけての個々の課題を明確にする。
	教職実践演習（教論）	8	◎		◎			◎	教職課程の仕上げとして、教員の資質や人間関係力、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。具体的には、教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
	教育職インターンシップ1	3			◎	◎		◎	この講義は、「教育職インターンシップ・イクステンション」の成果に資するために、集中講義として位置づける科目であり、「教育職インターンシップ・イクステンション」と併せて受講する科目である。 京都府、京都市教育委員会、および滋賀県教育委員会所轄の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で実務研修（12日以上かつ90時間以上）を行う。 教育実習が教科指導中心であるのに対し、教育職インターンシップでは教員の仕事を全般的に体験する。例えば、学級担任の補助（学級経営の補助、担任業務の補助、生活指導の補助、進路指導の補助）、教科指導の補助（授業補助、少人数指導の補助、個別指導の補助）、学校行事や児童会（生徒会）活動、部活動の指導補助、学校行事指導補助などである。
	教育職インターンシップ2	5			◎	◎		◎	この講義は、「教育職インターンシップ・イクステンション」の成果に資するために、集中講義として位置づける科目であり、「教育職インターンシップ・イクステンション」と併せて受講する科目である。 佛科大学近隣の各教育委員会所轄の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で実務研修（10日以上かつ80時間以上）を行う。教育実習が教科指導中心であるのに対し、教育職インターンシップでは教員の仕事を全般的に体験する。例えば、学級担任の補助（学級経営の補助、担任業務の補助、生活指導の補助、進路指導の補助）、教科指導の補助（授業補助、少人数指導の補助、個別指導の補助）、学校行事や児童会（生徒会）活動、部活動の指導補助、学校行事指導補助などである。
	教育職インターンシップ・イクステンション1	4			◎	◎		◎	教職の理解と教員に必要な資質・能力について理解をし、実務研修の振り返りとまとめを行う。 また、研修生交流会や最終報告会でのプレゼンテーションを行う。
	教育職インターンシップ・イクステンション2	6			◎	◎		◎	この講義は、「教育職インターンシップ」の実務研修の振り返りとまとめを行う。「教育職インターンシップ」と併せて受講する科目である。授業において、教職の理解と教員に必要な資質・能力について理解を深め、実務研修の省察を行い、教育職インターンシップでの実践を客観的に検証しつつ、学校教育の本来のあり方やその本質に迫る。また、研修生交流会や最終報告会でのプレゼンテーションを行うとともに、成果をまとめる。
	臨床心理学	3		◎					臨床心理学の概観を捉え、基礎知識を理解するとともに、心の問題に対する援助の姿勢を養う。臨床心理学の基本的な観点を「自分」「影」「言葉」「イメージ」「病」といった日常用語を用いて考え、「心」についての理解を深める。
	ピアノ指導1	1		◎					保育における音楽活動や、小学校音楽科授業を行う上で必要となる「ピアノ演奏能力」を向上させるためのレッスンを中心として授業を展開する。個人の能力に合わせて課題を設定し、ピアノ演奏や弾き歌いの演奏技術を習得する。
	ピアノ指導2	2		◎					保育における音楽活動や、小学校音楽科授業を行う上で必要となる「ピアノ演奏能力」を向上させるためのレッスンを中心として授業を展開する。個人の能力に合わせて課題を設定し、ピアノ演奏や弾き歌いの演奏技術を習得する。
ピアノ指導3	3		◎					保育における音楽活動や、小学校音楽科授業を行う上で必要となる「ピアノ演奏能力」を向上させるためのレッスンを中心として授業を展開する。個人の能力に合わせて課題を設定し、ピアノ演奏や弾き歌いの演奏技術を習得する。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
関連	ピアノ指導 4	4		◎					保育における音楽活動や、小学校音楽科授業を行う上で必要となる「ピアノ演奏能力」を向上させるためのレッスンを中心として授業を展開する。保育所、幼稚園、小学校の採用試験に合格することをめざして、ピアノ演奏やピアノ弾き歌いができるようなプログラムが組まれる。個人の能力や要望によっては、採用試験レベル以上の演奏能力を身につけるプログラムを組むことも可能である。
	生涯学習概論	2		◎		○			「学校教育」や「子どもへの教育」という従来の狭い「教育」の発想を拡張し、人が生涯にわたって「いつでも・どこでも・誰でも」学ぶ「生涯学習」という関心から、国内外のさまざまな教育問題を理解できるように導く。学習の場や機会が多様であること、生涯各期の特性に応じた支援が必要であることを習得する。
	生涯学習概論 2	3		◎		○			生涯学習の実践と支援について生涯学習・社会教育における基本的な考え方や、生涯学習の理論について説明を行う。さらに生涯学習の具体的方法と実践を検討し、今後の生涯学習支援の課題を考えていく。
	社会教育演習	5		◎		○			社会教育施設は社会教育の実践の場である。この授業では、さまざまな社会教育施設の現状について統計資料・実践事例・現地調査から検討を進める。後半では青少年社会教育施設に焦点をあてて、支援者の専門性についても考察を深め、今後の社会教育を展望する。
	社会教育課題研究	3		◎		○			生涯学習の支援方策——学習プログラムをデザインする社会教育主事は社会教育の専門職であり、地域住民の学習を支援する役割を担う。この授業では、特定地域の社会教育主事になったという設定で、学習プログラム（個別事業計画）を作成し、発表してもらう予定である。当該地域の幅広い情報を収集し、それらを分析・整理しながら、事業を計画するという実践的プログラムの中で、社会教育主事の役割や専門性についての理解を深める。
	社会教育特殊講義	3		◎		○			ジェンダーと教育 ジェンダーとは、生物学的な性差に対して、社会的・文化的な性の特徴を指す言葉とされている。本講義においては、性別、家族、教育の問題をジェンダーの視点から見つめ、ジェンダー・センシティブな教育のための今後の課題について考察を深めていく。考えていく。
	男女共同参画論	3		◎		○			ジェンダーとは、生物学的な性差に対して、社会的・文化的な性の特徴を指す言葉とされています。男女共同参画社会においてジェンダーについて何が問題とされてきたのかという実態を踏まえ、ジェンダー・センシティブな教育とは何か、そしてそれが今後どのように実現される必要があるのかについて考察していきます。男女が、職場、家庭、地域などで、フェアで対等に生きるための教育とはいかにあるべきかについて、一緒に考えていきます。
	NPO法人マネジメント論	3		◎		○			公共政策の一翼を担うNPO（非営利組織）の活動とマネジメントを理解し、卒業後にさまざまな組織で政府や企業の手の届かない課題解決に尽力できる人材となる第一歩を踏み出してもらうことを目的とする。NPOとは何か、企業との違い、あるべきマネジメントを認識し、今なぜそれが求められているのかを理解し、具体的な活動とその課題について入門レベルで講義する。
	社会教育実習	5		◎		○			本科目「社会教育実習」は、これまでに社会教育関連科目で学んだ内容の実践化を図り、その事実を対象として考察することを目的としている。方法として、社会教育現場の実際（施設職員の活動、利用者の学習支援）を観察し、施設業務の補助を通じて自身の社会教育に対する考えを深め、実践力を養う。さらに実習簿の作成により経験を振り返り、知識の定着を行う。
	図書館概論	3		◎		○			「図書館とは何か」、「図書館の種類」、「図書館の基本的機能」といった図書館に関する基礎的な知識を習得する。 図書館の意義、種類、基本的機能、関係法規、歴史、職員などについて概説する。館種別にみた図書館の現状と課題、利用者ニーズと図書館職員の役割について解説する。市民の知的自由を保障する図書館に関して討議を行い、図書館機能の本質について考究する。
	博物館学 I	3						◎	現代社会において、社会教育施設から生涯学習施設へ、教育行政から文化行政へと移行する博物館は変革のときをむかえ、博物館の意義と役割がとわれている。これまでの「博物館」の歩みを確認して博物館の役割や機能などを紹介し、現代社会が求める博物館像を検討する。
	図書館情報技術論	3		◎		○			司書に必須の図書館の最新技術、および利用者として有用な情報リテラシー デジタルコンテンツを自在にあつかう司書になろう Cyber+Librarian=Cybrarian 今日の図書館司書の業務では、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。 本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館業務システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。
	図書館制度・経営論	3		◎		○			公共図書館の制度と経営の理論 図書館を図書館法と関連する法律や政策によって解説する。図書館長の役割、職員や施設、予算、サービス計画や評価等の視点から、図書館経営の基本的なあり方を事例もまじえながら解説する。また、管理形態の適正化、コミュニティやニーズ等、急速な環境の変化に対応できる図書館経営について解説する。
	図書館サービス概論	3		◎		○			図書館運営の基礎となる図書館サービスについて、その基本的な原理・原則、歴史、そして最新のサービス動向を理解する。 公立図書館における多様な図書館サービスの状況を紹介する中から、図書館サービスを支える基本的考え方、図書館サービスの構造、図書館サービスの種類などを学ぶ。また図書館サービスをより発展させるための現場の工夫などを学ぶ。
情報サービス論	3		◎		○			本講義は「情報サービス演習」科目の前提となる知識の取得を目的とした講義科目である。情報を扱う専門家集団である図書館における情報サービスの意義を明らかにし、情報サービスの種類や特徴及び情報を扱う人材の役割などを紹介する。また情報サービスの中心的なレファレンスサービスについて、理論、運用方法、情報収集手段としての情報検索技術、情報サービスの今後の方向性を解説する。 図書館の伝統的な印刷媒体資料とデジタル資料をベースに、利用者の情報ニーズに応えるのが情報サービスであるため、情報サービスに使われるこれらの資料群をまず理解する。このためこの科目のベースは、「図書館情報技術論」、「図書館情報資源概論」となる。また、「情報サービス論」は、図書館サービスに関する科目「情報サービス演習」の理論を受け持つという関係になる。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
関連	児童サービス論	3		◎		○			公共図書館にとって児童サービスは重要な担当業務である。子どもは、生涯続く図書館利用者だからである。知識を得るだけでなく、業務の実践を体験しながら、自発的に考え行動する児童図書館員の育成を考えています。 子どもの図書館にとって、①子どもを知ること、②子どもの本を知ること、③子どもと本を結びつけること、が重要である。この3点を軸に、子どもの読書、子どもの図書館、子どもの本を学習し、子どもの本を紹介する技術の習得を、ワークショップ形式で学んでいく。
	情報サービス演習1	5		◎		○			レファレンスサービスとは何か。図書館員としてのカウンセラーマインドに触れながら、レファレンスコレクションについての知識、情報検索について、課題事例をもとに回答するといった演習を行う。また、収集した情報から、文献情報の読み方、資料の入手方法、利用の仕方を学ぶ。さらに入手した資料の情報管理に触れたいうで、引用文献の書き方やマナーを理解する。 最後に情報発信サービスとして、パスファインダーの作成および発表を行う。 情報サービス演習Ⅰは、基礎編としてレファレンスサービスを主に扱う。
	情報サービス演習2	5		◎		○			問題解決プロセスの流れを通して、情報検索スキル、情報発信サービスの基礎を学ぶ。具体的には、情報収集方法、データベース各種の使い方、検索方法を演習する。また、調査戦略では、これまで学んだ検索ツールを用いて課題事例にあたり、得た解答について学生間で情報共有し、プロセス全体について相互評価する。 情報の戦略的活用として、情報分析について触れ引用の評価について理解する。 特定テーマに関する情報検索を行い、文献問題を作成し発表する。 情報サービス演習Ⅱは、応用編として、情報検索と情報サービスを主に扱う。
	図書館情報資源概論	3		◎		○			多様化する図書館情報資源を十分に理解し、活用できる、次世代の図書館員や利用者となるにふさわしい知識を身につける 図書館が取り扱う情報資源について、広く印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源に関するそれぞれの種類とその特質、歴史、生産と流通の観点から知識をあたえる。あわせて、図書館業務として情報資源を選択、収集、保存、管理するために必要な基本的知識と理解を養うために解説する。
	情報資源組織論	3		◎		○			図書館の資料は利用しやすいように整理されている。その手法の変遷を、歴史的・地理的に概説したうで、現在の日本の図書館現場の事情を説明する。具体的には、目録・分類・件名を体系的に示したうで、目録では日本目録規則を歴史的変遷とともに解説し、分類では日本十進分類法を中心に説明し、件名では基本件名標目録をシソーラス構造とともに解説する。これらの過程では、コンピュータが使われるのが一般となっている。機械可読目録や書誌ユーティリティを用いた共同分担目録作業などのシステムについても触れる。
	情報資源組織演習1	5		◎		○			「情報資源組織論」で学んだ情報資源の組織化の実践を学ぶ。多様な例題を用いて情報資源の書誌データ作成を行う。書誌記述は『日本目録規則(NCR)1987年版改訂3版』を使用する。分類作業では、『日本十進分類法 新訂9版』(NDC)を使用して、主題からの検索に対応すべく情報資源の主題分析及び分類記号付与の実践を演習する。
	情報資源組織演習2	5		◎		○			情報資源組織論演習1で学んだ記述目録法と主題目録法の内容を基に発展的な学習をおこなう。書誌的記録作成の実践としてデータベースを利用した入力実習を行い、MARCの理解を深める。また、統制語彙を適用した索引付与の実践は、『基本件名標目録(BSH)4版』を用いて件名付与の演習を行う。さらに、書誌記述の応用として抄録やメタデータ作成などの実践を演習する。
	図書・図書館史	3		◎		○			図書および図書館の歴史 多様な形態をとる図書の歴史を世界史的規模で概観し、それを収集・整理・保存・提供してきた図書館の歴史を考察する。そして、とりわけ図書および図書館が多数の市民に開放されていく近代図書館の発達過程を思想的、制度的に検証する。
	図書館情報資源特論	3		◎		○			さまざまな学術情報資源について理解するとともに、人文科学、社会科学、自然科学・技術分野の専門領域に関する学術情報の構造とその利用及び各領域における資料・情報の特徴と種類について理解する。 図書館情報資源概論の内容を踏まえ、特に学術領域に関する情報・資料に関する講義を行う。 学術情報の生産・流通・利用・評価の過程について把握するとともに、現在の情報ネットワーク環境の変化に伴う学術情報・資料について講義を行う。そして、学術領域(人文科学、社会科学、自然科学・技術)の特性を整理したうで、各分野における情報・資料の種類と特徴についても言及する。
	図書館サービス特論	3		◎		○			学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活用についての理解を図る。 講義を主体とするが、グループ学習・討論も取り入れる。
	図書館総合演習	5		◎		○			「大学図書館」、「学校図書館」、「専門図書館」、「障害者サービス」、「多文化サービス」など、学生の興味にもとづいたトピックの情報探索、図書館見学、学校図書館のボランティア活動、討議を通して、図書館に対する視野の広がりや主体的な学びを獲得させる。
	図書館基礎特論	7		◎		○			公共図書館の現状と課題についての発展学習を行う。公共図書館の現状と課題について、学生に認識を深めさせるため、3つのテーマから講義・演習を行う。 3つのテーマとは、公共図書館の理念と職員像、利用者サービス、図書館利用者教育である。 公共図書館の理念と職員像では、図書館法・図書館の自由に関する宣言・図書館員の倫理綱領の理解と問題事例を紹介し、学生間のグループ討議を行う。 また、利用者サービスでは、児童、問題行動を起こす利用者に対する対応に関連した事例を紹介し、学生間のグループ討議を行う。 そして、図書館利用者教育では、学生に、公共図書館におけるパスファインダーの必要性を考えさせた後、パスファインダーの作成に取り組ませる。その際、参考図書、NDCの基礎を踏まえさせる。
	図書館実習	7		○		◎			図書館員に必要な資質を養うために、図書館実習に必要な事前指導・実習・事後指導を行う。事前指導では、学生自身になぜ図書館実習を行うのか、実習における自分のテーマを確認させることで、実習に対する意識を深める。またガイダンスでは、図書館実習を行ううで必要な手順やマナーについて講義する。学生が実習体験を行った後、事後指導として、図書館報告、図書館実習事後挨拶、図書館実習記録を通して、自身の体験を振り返らせる。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
関連	学校経営と学校図書館	3		◎		○			学校図書館を理解するうえで必要な基本的内容 1. 学校図書館の理念と教育的意義 2. 学校図書館の発展と課題 3. 教育行政と学校図書館 4. 学校図書館の経営 5. 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 6. 学校図書館メディアの選択と管理、提供 7. 学校図書館活動 8. 図書館の相互協力とネットワークの理解を図る。
	学校図書館メディアの構成	3		◎		○			多様な児童生徒に対する学習支援を視座に、情報媒体の特徴を把握し、図書館メディアの構築(コレクション)を検討する。次に、メディアへのアクセスのための支援ツールとして、パスファインダーの手法を学ぶとともに演習を行う。 併せて、利用者がメディアにアクセスできるように、一連の資料組織についての実践方法を理解するとともに演習を行う。
	学習指導と学校図書館	3		◎		○			「豊かな学びの中核となる学校図書館」として、司書教諭の職務を理解し、図書館資料を利用する授業を実践・支援・協働する司書教諭としての力量をつける。 ・講義を中心に進めるが、各教科等における学習指導や子どもと本を結ぶための方法などについて考察し、グループ討議を行う。また、ブックトークなど具体的な活動を体験することにより、実践力を養う。
	読書と豊かな人間性	3		◎		○			・読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、学校での読書活動推進の中心的役割を担う司書教諭としての資質を身に付ける。 ・学校図書館における読書活動について、「学び」と「読書」を軸にししながら、読書活動の意義と目的について考える。その上で、「読書を介しての心の教育」や「発達段階に応じた読書の指導の在り方」など学校図書館司書教諭として何ができるか、何をすべきかを共に考える。
	情報メディアの活用	3		◎		○			情報メディアの意義と活用について論じる。現代社会はテクノロジーの進展に伴い、高度情報社会化しつつある。学校教育においてもコンピュータの活用やインターネットの効果的利用などが求められており、学校図書館は学習センターとしての新たな役割が期待される。司書教諭は、多様なメディアについての理解を持ち、情報リテラシーを活かした学校図書館の活用を教科学習に統合することが求められる。情報リテラシーを身につけたメディア専門職を想定し、インターネットによる情報検索と情報発信、学校図書館メディアと著作権の関係にも触れる。
	レクリエーション実技	3		◎		○			学校や園現場において、よりよい学習集団の構築を企図したとき、その一つの方策としてレクリエーション活動の展開が効果的に作用する。本講義ではレクリエーション実技を理解し、レクリエーション・スポーツや集団のゲームなどを体験する。レクリエーション支援(指導)案を作成し、支援(指導)者としてのスキルを獲得する。
	レクリエーション指導実習	3		◎		○			学校や園現場において、よりよい学習集団の構築を企図したとき、その一つの方策としてレクリエーション活動の展開が効果的に作用する。本講義では、特に学校行事(宿泊行事)を想定し、そこで必要なレクリエーションスキルの目的と獲得を目指すものである。 学内でのコミュニケーション実習(3時間) 学外での宿泊を伴う野外レクリエーション指導実習(2泊3日)
	レクリエーション概論	3		◎		○			スポーツ・レクリエーションは、現代社会においてどのような価値をもっているのだろうか。乳幼児期から高齢期までの間、それぞれのステージにおいてどのような関わり方をすることになるのだろうか。その実態と管理手法について考察する。
	宗教教育論	3		◎		○			近代日本における宗教と教育の関係は、切り離すことができない関係にあるが、課題も散見される。本講義では、「宗教の本質」についてどのようにその時代の人間が理解していたかを考察することを通して、宗教と教育の関係性について検討する。特に、「宗教的情操」に焦点を当てて、近代日本における宗教と教育の関係に検討を加えていく。
	視聴覚教育メディア論	3		◎		○			視聴覚教育の発展は、博物館や美術館を含む、広い分野における「教育」に多大な影響を及ぼしてきた。情報機器(伝達手段=メディア)の進展は、そうした影響をさらに大きくしている。しかし、その一方で、「視聴覚教育とは何か?」という問題が複雑化したことも事実である。本講義では、視聴覚教育の歴史的展開を、技術史と併せて紹介することを通じて、視聴覚教育のあり方や本質について学ぶ。そして、各自が視聴覚教育の実践への活かし方を考えることに取り組んでもらいたい。
	仏教音楽教育論	1		◎					仏教音楽とは、仏教の儀式で用いられる音楽、あるいは僧侶や信徒が仏教徒として演奏する音楽の総称である。地域や時代によって、民族性や歴史を反映した多くの種類のものがあるが、一般に大乗仏教が音楽性に富んでいると言われている。仏教行事に用いられる雅楽や、芸術的に洗練された日本の尺八音楽も、広義の仏教音楽に属する。本講義では、こうした仏教音楽の意義を教育的視点から考察する。
	中等教科教育法社会・地理歴史1	3							前半では、社会科教育・高等学校地理歴史科の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。 後半では、学習指導要領地理歴史科の「内容」「内容の取扱い」や地理歴史科の学問的背景となる領域に基づき、教材研究を行う。
	中等教科教育法社会・地理歴史2	4							「中等教科教育法地理歴史1」の学習内容に基づき、前半では、学習指導要領地理歴史科の「内容」「内容の取扱い」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。 後半では、模擬授業実施と授業省察を通し、社会科教育の本質と学習指導要領における高等学校地理歴史科の性格についてさらに理解を深める。
	中等教科教育法社会・公民1	3							前半では、社会科教育・高等学校公民科の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。 後半では、学習指導要領公民科の「内容」「内容の取扱い」や公民科の学問的背景となる領域に基づき、教材研究を行う。
	中等教科教育法社会・公民2	4							「中等教科教育法公民1」の学習内容に基づき、前半では、学習指導要領地理歴史科の「内容」「内容の取扱い」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。 後半では、模擬授業実施と授業省察を通し、社会科教育の本質と学習指導要領における高等学校地理歴史科の性格についてさらに理解を深める。
中等教科教育法国語1	3							前半では、中学・高等学校国語科の概論として、その意義、歴史的展開、目標・内容・全体構造などについて学習指導要領を中心に理解を深める。後半では、それぞれの領域や事項の指導の目標・内容・指導の方法や留意点、教材について学んでいく。	
中等教科教育法国語2	4							前半では、授業実践のために必要となる指導技術、授業づくりの方法などについて理解を深める。 後半では、実際に授業設計と学習指導案の作成・模擬授業と授業省察を通し、中学・高等学校国語科授業者として求められる授業実践力を身に付ける。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
関連	中等教科教育法国語 3	3							中学校国語科の背景となる関連諸学問や領域（文学研究、日本語学、書道、コミュニケーション学など）との関連の理解に基づき、授業実践につながる教材分析の在り方について理解を深める。
	中等教科教育法国語 4	4							「中等教科教育法国語2」の学習内容を発展させるものである。前半では、新学習指導要領国語科の「内容」「内容の取扱い」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。 後半では、模擬授業実施と授業省察を通し、国語教育の本質と新学習指導要領における中学校国語科の性格についてさらに理解を深める。
	中等教科教育法書道 1	3							前半では、書道教育・高等学校芸術科「書道」の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。 後半では、学習指導要領芸術科「書道」の「性格」「目標」「内容」や書道教育の学問的背景となる領域に基づき、教材研究を行う。
	中等教科教育法書道 2	4							「中等教科教育法書道1」の学習内容に基づき、前半では、学習指導要領芸術科「書道」の「性格」「目標」「内容」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。 後半では、模擬授業実施と授業省察を通し、書道教育の本質と学習指導要領における高等学校芸術科「書道」の性格についてさらに理解を深める。
	中等教科教育法英語 1	3							英語教育の目的、現状、指導事例の紹介といった講義を中心に、中学校・高等学校英語科教員としての資質の基礎を養成する。 また、講義だけではなく、学んだ指導方法等をもとにして効果的な授業のあり方を考え、それを模擬授業という形で実践へとつなげていく。 現在では目標言語である英語を使って授業をすることが求められており、英語力と指導力の融合もはかりたい。
	中等教科教育法英語 2	4							「中等教科教育法英語1」での模擬授業を踏まえ、実践から理論（英語教育の目的、学習指導要領、第二言語習得論、5技能の指導理論）の理解へとつなげる。また、英語を使った授業展開に必要な英語表現や、文法指導の基礎となる英文法知識についても確認する。このように、この授業では理論と英語力という二つの側面から、中学校・高等学校英語科教員としての資質を養成する。 なお、英語科教員に要求されているCEFR B2レベルの総合的な英語力の習得を目指すためにも、TOEIC 500点以上のスコアをレベルに応じて評価に加える。
	中等教科教育法英語 3	3							【中学校英語科：発展】 「中等教科教育法1・2」で学んだことに基づき、学習指導要領、教科用図書、目標設定・指導計画について理解を深めた上で、中学校・英語科および小学校高学年・英語科における授業実践を中心に展開し、授業実践力と省察力を養成する。多くの模擬授業を経験することで、授業力を身につけてもらいたい。
	中等教科教育法英語 4	4							「中等教科教育法英語3」での模擬授業に続き、各受講生の授業実践を振り返り、学習指導要領、第二言語習得論、英語教授法理論といった理論的側面から検討しなおすことで、さらに学習効果の高い授業実践ができるようになることを目指す。 また、5技能の指導のみならず、音声指導、異文化理解からのアプローチ、ICTの活用、生徒の特性・習熟度への対応についても検討する。
	中等教科教育法中国語 1	3							【中学・高等学校中国語：基礎】 前半では、外国語教育、中学・高等学校外国語（中国語）の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。 後半では、文法事項を中心に授業実践で必要となる指導法について授業を展開する。
	中等教科教育法中国語 2	4							【中学・高等学校中国語：基礎】 「中等教科教育法中国語1」の学習内容に続き、前半では、授業実践で必要となる指導法について授業を展開する。 後半では、「中等教科教育法中国語1.2」で学習した指導法を活用し模擬授業をおこなう。
	中等教科教育法中国語 3	3							【中学校中国語：発展】 中学校外国語（中国語）の授業において授業内容を更に発展させることを念頭に置いて、近現代中国における言語改革の歴史を中心に教材研究を行う。
	中等教科教育法中国語 4	4							【中学校中国語：発展】 中学校外国語（中国語）の授業において授業内容を更に発展させることを念頭に置いて、特に中国語教育の歴史を理解することに重点を置き授業展開する。
	中等教科教育法宗教 1	3							前半では、宗教教育の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。 後半では、宗教教育の本質や宗教教育の学問的背景となる領域に基づき、教材研究を行う。
	中等教科教育法宗教 2	4							「中等教科教育法宗教1」の学習内容に続き、 前半では、宗教教育の本質と学習指導要領の性格に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。 後半では、模擬授業実施と授業省察を通し、宗教教育の本質と学習指導要領の性格についてさらに理解を深める。
	中等教科教育法宗教 3	3							前半では、宗教教育の本質と新学習指導要領の性格について理解を深める。 後半では、宗教教育の本質や宗教教育の学問的背景となる領域に基づき、教材研究を行う。
	中等教科教育法宗教 4	4							「中等教科教育法宗教3」の学習内容に続き、前半では、宗教教育の本質と新学習指導要領の性格に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。 後半では、模擬授業実施と授業省察を通し、宗教教育の本質と新学習指導要領の性格についてさらに理解を深める。
	中等教科教育法情報 1	3							高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。この授業では、情報科の意義、教育目標と内容、授業設計と授業計画、学習指導案の作成などについて学ぶ。主に、「社会と情報」に関する分野の学習内容について学習指導案を作成することにより、具体的な授業方法についても学ぶとともに、情報科教員として必要な知識・技能および実践的な能力を身につける。なお、高等学校の次期学習指導要領の共通教科情報科（情報I）の内容を含めた授業を行う。また、講義や演習形式の授業が主となるが、学習指導案の作成では、グループ学習、協働学習形式の授業であり、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業となるように留意する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	教育学に関わる理論的知識と学習指導に関わる実践的知識を有し、教育現場での問題の解決に取り組むことができる	教育職の重要性を自覚し、学校教員として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	教育現場をはじめチーム学校の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	教育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を集成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
関連	中等教科教育法情報2	4							高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。また、専門教科「情報」では、情報に関する幅広い知識や技能を有した技術者の育成が必要となっている。この授業では、教育目標と内容、授業設計と授業計画、学習指導案の作成などについて学ぶ。主に、「情報の科学」に関する分野の学習内容について学習指導案を作成し、具体的な授業方法についても学ぶとともに、情報科教員として必要な知識・技能および実践的な能力を身につける。なお、高等学校の次期学習指導要領の共通教科情報科（情報I、情報II）の内容を含めた授業を行う。また、講義や演習形式の授業が主となるが、学習指導案の作成では、グループ学習、協働学習形式の授業であり、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業となるように留意する。
	中等教科教育法福祉1	3							前半では、福祉教育・高等学校福祉科の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。 後半では、学習指導要領福祉科の「内容」「内容の取扱い」や、教材研究、指導案の作成、模擬授業を行う。
	中等教科教育法福祉2	4							「中等教科教育法福祉1」の学習内容に基づき、前半では、学習指導要領福祉科の「内容」「内容の取扱い」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。 後半では、模擬授業実施と授業省察を通じ、福祉教育の本質と学習指導要領における高等学校福祉科の性格についてさらに理解を深める。
	介護等体験指導	3							義務教育段階の教員免許取得希望者には、「介護等体験」が法的に義務付けられている。そこでこの科目では、最初に介護等体験の意義や内容、そして教職に求められる資質や能力などとの関係について知り、続いて特別支援学校での体験について、さらに社会福祉諸施設での体験について検討する。 (1) 介護等体験とはなにか (2) 特別支援学校での体験について (3) 福祉施設での体験について 3人の教員によりリレー方式で講義を行う。
	介護等体験	4							事前指導をふまえ、介護等体験に取り組む。 その後、成果について事後指導で確認する。